

## 2023 年度大阪女学院事業計画策定にあたって

### I. はじめに

大阪女学院の歴史と建学の精神、創立 140 周年に向けて大阪女学院全体像を展望している「VISION OJ140」（下記Ⅲ参照）、「第Ⅲ期中期計画（2020～2024 年度）」及び 2022 年度の計画推進の進捗状況を踏まえて、2023 年度事業計画を策定します。

2023 年度事業計画は、大阪女学院と共に今を生きることを赦されている私たちが、関わった一人ひとりの生徒・学生、教職員の気づきと学びと人格涵養の体験、即ち、大阪女学院の人が生きた真実を積み集められた 139 年の歴史の線上に立っていることを前提にしています。さらに、先達は時々の環境変動に対応して、苦悩の中を歩み、歴史を継承、新しい学院を創造してきました。私たちは、この 139 年間、神さまが傍らにいて、導いてくださり、先達が築かれた歴史に誇りを覚えて、教育研究活動を展開し、生徒・学生の全人格を磨くこと、大阪女学院が磨かれることに力を注ぎます。そして、地球規模での多様な課題と急速な環境変動に直面して、生かされていることを覚えて、「平和を創り出す人に」という大阪女学院の希望を覚えて、歩みます。

2023 年度は、2024 年度の学院像である「VISION OJ140」を基にして、創立 150 周年の運営像「VISION OJ150」を描きつつ、最重要課題である短大・大学の学生数の定員確保と運営改革に取り組み、健全財政に向けての計画策定と構造改革を実施します。

### II. 2023 年度の重点課題と取り組みについて

大阪女学院と生徒・学生・教職員に仕える教職員の基本姿勢として、「神さまに委ねられている一人ひとりの生命と賜物と身体を大切に守り育てること」を確認した上で、短大・大学の運営と学生募集を最重要課題として、学院全体で次の項目に取り組みます。

- 1 短大・大学の事業サイズの適正化を図り、運営方法を変革する。
- 2 学生募集の取り組みを刷新する。
- 3 学院全体の事務体制の再編成を図り、省力化と経費削減を図る。
- 4 協力支援が可能な社会資源、人的資源の活用を図る。
- 5 学内理事会及び理事会の運営改革に取り組む。

### III. 「VISION OJ 140」に向かう運営

建学の精神（ミッションステートメント／2009 年 9 月 15 日制定）

大阪女学院は、創造主を恐れキリストの教えに従って一人ひとりを愛し、何が重要であるかを見抜く力を養い、喜びをもって進んで社会に仕える人を育む

## VISION OJ 140

[大阪女学院が育もうとする学生・生徒像]

\*キリスト教に基づく愛と奉仕を実践する人

\*自由で主体的な学びの中から物事の本質を見つめ、進むべき道を選ぶことのできる人

\*英語力を基礎に幅広い教養と公正な判断力を身に付け、自律的・主体的に行動できる人

\*性別の役割にとらわれずに多様な可能性を探し求め、リーダーシップを覚えて、女性の尊厳の確立に努める人

\*社会の課題に関心を持ち、世界、日本、地域、人に仕える人

[140周年(2024年度)を迎える大阪女学院の姿]

「中学校から大学院まで キリスト教を基盤に全人格を育む女子・女性の教育機関」

### 1. 大学・短期大学の運営像

(1) 地球環境、平和、差別、貧困及び女性の尊厳に関わる潜在的な課題に関する教育の展開

(2) 英語運用能力の伸張と教養教育との融合を深化させる中で人格を育む教育の展開

(3) 2024年度の全体像

短期大学:1学年100名 大学:1学年150名 全学学生数:800名+大学院生

(4) コンセプト

キリスト教教育、人権教育、英語教育及び専門教育を柱に、確かな自己認識と社会認識によって問題意識を育み、世界の様々な場で人々と協働する女性を育てる高等教育機関

### 2. 中学校・高等学校の運営像

(1) 世界を見つめ、生き生きと社会で活動する女性を育む

(2) 女性の視点での教育活動の展開

(3) 2024年度の全体像

中学校:1学年4クラス150名 高校:1学年7クラス240名

全校生徒数:1170名

(4) コンセプト

平和と共生の実現に寄与する生徒を育む学校

### 3. 部門間の連携・協働の姿

(1) 中学校から大学院までの教育研究機関であり、キリスト教を基盤に全人格を育む女子の学校であることを地域社会に広く報せる。

(2) 大学院の研究成果(国際共生、平和)が、短大・大学にとどまらず、中学校・高等学校の中に活かされる教育を展開する。

(3) VISION OJ140、第Ⅲ期中期計画に則って、部門間の連携・協働がより充実している。

### 4. 教育研究活動を支える学院運営の姿

(1) 女性が働くための課題と職場環境の充実

(2) 学院全体が協働する運営組織とシステムの構築

(3) 健全な財務体質への転換

(4) キャンパス施設設備の維持及び新設計画

(注)VISION OJ 140は2019年度に一部改訂したものです。